

アクセシビリティと人権

私たちの社会は、多様な人々が共に暮らす場所です。しかし、全ての人が平等に生活できるわけではありません。特に、障がいを持つ方々や高齢者の方々にとって、日常生活の中でさまざまな障壁が存在します。そこで重要なのが「アクセシビリティ」です。



○「アクセシビリティ」とは？

アクセシビリティは、英語で「Accessibility」。直訳の「近づくことができる」「アクセスできる」「利用しやすさ」という意味から派生して、「誰もが平等に利用できる環境」を意味します。

これには、公共交通機関や建物、情報、サービスなど、あらゆる面での配慮が含まれます。

例えば、バリアフリーの設計や、視覚障がい者向けの音声案内、聴覚障がい者向けの手話通訳の提供などが具体例です。

なかでも「情報アクセシビリティ」は、身近なところで、私たちの生活がより便利に、快適になるようサポートしてくれています。

▶スマートフォンでは、「目」としても、「耳」としても機能して私たちがサポートしてくれます。

- 怪我をしてスマホがうまく使えない …… 音声入力！
- 着信音や周囲の音に気がつきづらい …… 振動や光での通知機能！など

▶映画館やテレビでは、必要な人に必要なツールが用意され、だれもが安心して映画やテレビを楽しむことができます。

- 視覚的に見えづらい方には …… 音声ガイド！
- 聴覚や言語が聞き取りづらい方には …… 字幕など！

○人権としての位置づけ

アクセシビリティは、単なる「親切心」や「福祉」ではなく、誰もが社会に参加し、尊厳を持って生きるための権利で、現代では「基本的人権」の一部として捉えられています。もし、特定の人々が必要なサポートを受けられなかったり、アクセスできない環境に置かれたりすると、それは明らかに人権の侵害です。

○日本における法的義務の強化

日本においても、アクセシビリティの確保は法的義務となっています。

▶改正バリアフリー法（2025年6月改正施行）

公共交通機関や建築物における物理的なアクセシビリティ基準を定めています。

▶障害者差別解消法（2024年4月改正施行）

これまで努力義務だった民間事業者による「合理的配慮の提供」が義務化されました。車椅子利用者のためのスロープ設置や視覚障がい者への読み上げ対応など個別のニーズに応えることが法的義務となっています。

▶障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法

（障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律）（2022年施行）

国や地方公共団体、事業者に対し、情報アクセシビリティ向上を義務付け、施策を推進する基本理念を定めています。また、コミュニケーションの方法は障がいの種類や程度、特性によって異なります。そのため、手話や要約筆記、音声など情報を取得する手段を、可能な限り選べるようにすることが規定されています。

○みんなで作るアクセシブルな社会

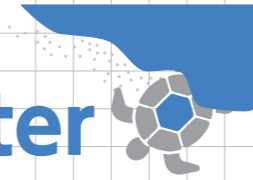
年齢、障害の有無、性別、国籍等に関わらず、すべての人がお互いの人権や尊厳を大切に、誰もがデジタル活用の利便性を享受/担い手となり、多様な価値観やライフスタイルを持って豊かな人生を送ることができる社会「デジタル共生社会」「アクセシブル社会」を実現するために、情報アクセシビリティへの理解を深めることが重要です。みんなで理解し、協力し合うことが、より良い社会の実現につながります！

一人ひとりが、「自分とは異なる状況にある誰か」の視点を持つことが、アクセシブルな社会への第一歩となります。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかそ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter No.50



黒潮と子ガメ

黒潮は私たちの暮らしだけでなく、アカウミガメの命をつなぐ上でもとても重要な役割を持っています。日本の太平洋沿岸を西から東に流れる「黒潮」は、北太平洋を大きく巡る「亜熱帯循環(図1)」の一部で、赤道の北側では「北赤道海流」、日本の太平洋沿岸で「黒潮」、三陸沖から東向きに流れる「黒潮続流」、北アメリカ大陸の沿岸を南下する「カリフォルニア海流」と地域ごとに呼び名が変わります(図1下)。この「亜熱帯循環」は、赤道付近を東から西に吹く貿易風と日本付近の上空を西から東に吹く偏西風が海の水を動かすことと、地球が自転する作用で北半球では時計回りに働く力、さらに陸地によって流れが北向き(時計回り)南半球では南向き、反時計回り)に曲げられ速くなる「西岸強化」と呼ばれる相互作用を原動力としています(図1上)。特に「西岸強化」の影響が強い「黒潮」はとても強い流れとなり、泳ぐ力が弱い小さな子ガメが遠く太平洋の沖合に散らばる手助けとなっています(図2)。(館長：平手康市)

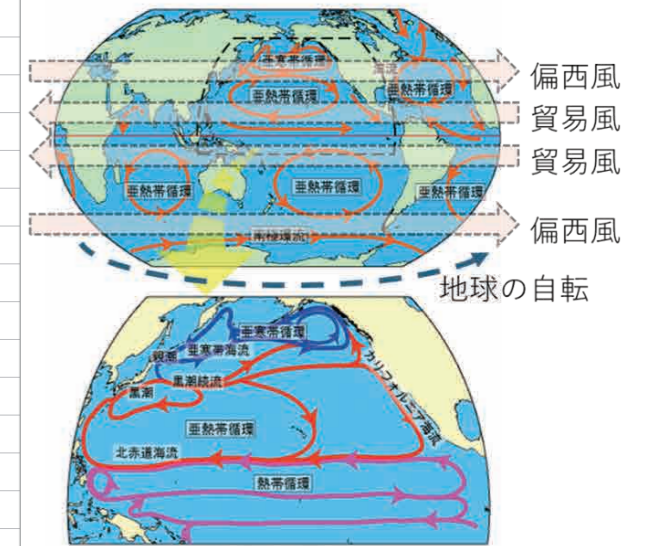


図1. 海流の模式図
気象庁HPより改変して引用

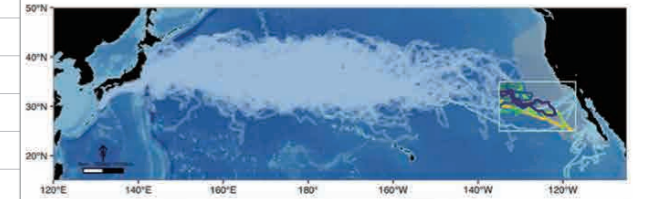


図2. 人工衛星で追跡した子ガメの移動(白線)
Briscoe他(2021)より引用

うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

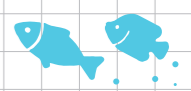
どうしてアカウミガメの子ガメは沖合に向かうの？

Answer

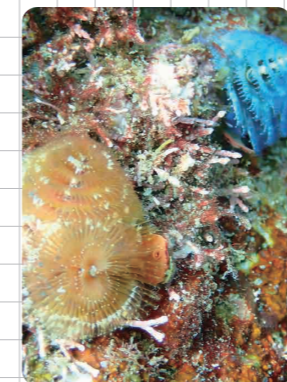
陸地からはるかに離れた沖合の海は「海の砂漠」と呼ばれエサが少なく子ガメを食べる生き物も多くはいません。一方、小さな体の子ガメならわずかなエサでも生きられる環境なので子ガメは沖合を目指すと考えられています。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します！



イバラカンザシ



イバラカンザシは、ゴカイの仲間に分類されます。岩やサンゴの表面に石灰質の硬い管を作り、その中に体を入れてくられています。一度定着すると、自分から大きく移動することはほとんどありません。体の先には鰓冠と呼ばれる花のように広がる部分があり、これを使って海の中の小さなプランクトンをこし取って食べたり、呼吸をしたりしています。危険を感じると、素早く管の中に引っこんで身を守ります。種類によっては管の入

り口をフタで閉じて身を守ります。繁殖は卵と精子を海中に放出する方法で、生まれた子どもは海を漂い、岩などにくっついて成長します。イバラカンザシは、海の中の小さなゴミなどを取り込みながら岩礁やサンゴ礁の生態系を支える役割を果たしています。(ダイバー:長楽美保)

